



支部だより

東北支部

秋田地区における化学に関わる見学会・講演会

秋田化学技術協会 工場見学

秋田地区では、化学および化学工業の発展ならびに会員相互の融和を図ることを目的として、秋田化学技術協会が活動しています。例年、秋に工場見学会を開催しており、令和7年度は秋田製錬株式会社と秋田石油備蓄株式会社を見学しました。

秋田製錬株式会社は、秋田港の北側に位置し、主に電気亜鉛、電気カドミウム、濃硫酸を製造しています。特に、電気亜鉛の年間生産量は21万トンで国内最大規模であり、大型の電解槽が整然と並ぶ様子は圧巻でした。同社では、世界で唯一の「ヘマタイト法」を採用し、各工程から生じる有価物を高効率で回収することで、環境調和型のものづくりに取り組んでいるとの説明を受けました。金属製錬の現場における省資源化と環境負荷低減の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。

秋田石油備蓄株式会社は、なまはげで知られる男鹿市の海岸沿いに位置する、約450万kL規模の国家石油備蓄基地です(写真1)。強固な岩盤層を利用した地中式タンクが12基設置されており、原油の液面が地表面より常に低く保たれるため、万一の場合にも原油が地上へ流出しにくい構造であることを知りました。中でも最大級のタンクは直径97m、容量35万kLに達し、エネルギーの安定供給



写真1 秋田石油備蓄株式会社での集合写真

を支える施設のスケールの大きさに圧倒されました。当日は天候の影響によりタンク見学がバス車内からに限定されましたが、安全管理を徹底した運用について理解を深めることができました。近年、中東地域の地政学的リスクにより、原油の安定供給に対する懸念が改めて高まっています。今回の見学を通じて、秋田石油備蓄が単なる大規模施設ではなく、エネルギー安全保障を支える重要な社会基盤であることを実感しました。

日本化学会東北支部秋田地区講演会・ナノマテリアルコロキウム

2025年12月24日に、秋田大学において日本化学会東北支部秋田地区講演会とナノマテリアルコロキウムを合同で開催しました(写真2)。福岡工業大学の宮元展義先生には、「無機ナノシートを組織化したソフトマテリアル」と題して、無機・有機ナノ複合材料の設計ならびにセンサー、色材、医療用素材などへの幅広い展開についてご講演いただきました。



写真2 講演の様子

弘前大学の松田翔風先生には、「電気化学が創る未来～次世代燃料電池の開発」と題して、電気化学の基礎から、CO₂を還元しながら電気を作り出す技術までをわかりやすくご紹介いただきました。三菱ケミカル株式会社の二宮航先生には、「化学系企業を取り巻く状況と三菱ケミカルにおける技術開発」と題してご講演いただき、最新の設備では触媒調製から性能評価まで人手を介さずに実施できることを知り、研究開発の自動化の進展に強い印象を受けました。弘前大学の吉田暁弘先生には、「金属発泡体を用いたリゲニン利用のための触媒開発」と題して、バイオマス資源の有効利用を触媒化学の観点からご紹介いただきました。講演後には活発な質疑応答が交わされ、教職員のみならず学生にとっても、分野横断的な学びと交流の場となりました。

〔高橋弘樹(秋田大学大学院理工学研究科)〕

© 2026 The Chemical Society of Japan